製品安全データシート

作成日：２０１０年１０月１９日
改定日：　　　　年　　月　　日

1．製品及び会社情報

製品名　：協和商工洗車機用カートリッジフィニッシュ５L*４

会社名　：協和商工株式会社
住所　：大阪府泉大津市臨海町1丁目３９
担当部門　：製造技術部　技術課

電話番号　：０７２５－２１－５７６７
FAX番号　：０７２５－２１－７８２７

推奨用途及び使用上の制限　：洗車機用ワックス剤（自動車塗装面の保護艶出し）

2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	火薬類	分類できない
	引火性液体	区分外
	自己反応性物質	分類できない
	自己発熱性物質	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入）	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷、眼刺激性	区分２
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分１
	特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分２
	特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分２
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水性環境有害性（急性）	区分３
	水性環境有害性（慢性）	区分３

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報　眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれ（奇形、骨化遅延、未骨化）
中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器の障害のおそれ
長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ
（中枢神経系、心臓、呼吸器）
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

［安全対策］　指定された個人用保護具(保護眼鏡、保護面、保護手袋)を着用すること。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸引しないこと。
環境への放出を避けること。

［救急措置］　眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
取り扱った後、手を洗うこと。
暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
暴露した時、または気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

［保管］　施錠して保管すること。

［廃棄］　内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

3．組成、成分情報

単一製品・混合物の区別　混合物

成分名	含有量 wt%	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR法No.	毒劇物法
カチオン系界面活性剤	3.0以下	登録済	登録済	非該当※1)	非該当	非該当
カルナバワックス	1.0以下	8015-86-9	対象外	非該当	非該当	非該当
パラフィンワックス	1.5以下	登録済	登録済	１７０※2)	非該当	非該当
石油系炭化水素	3.0以下	登録済	登録済	非該当	非該当	非該当
エチレングリコール	7.5以下	107-21-1	2-230	７５	非該当	非該当
防腐剤	0.1以下	登録済	登録済	非該当	非該当	非該当
染料	微量	登録済	登録済	非該当	非該当	非該当
水	90.0以下	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当

化 審 法	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）官報告示整理番号
安 衛 法	労働安全衛生法（安衛法）第５７条の２第１項政令指定物質の政令番号
	※１）カチオン系界面活性剤中に該当成分が含まれるが、含有量の関係により非該当
	※２）パラフィンワックス中に固形パラフィンとして 1.5wt.%以下含有
PRTR 法	特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善、促進に関する法律(PRTR 法)対象化学物質の政令番号
毒劇物法	毒物及び劇物取締法の劇物指定物質

３．応急措置

眼 に 入 っ た 場 合：直ちに清浄な水で最低 15 分間眼を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取除いて洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合、激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。医師の指示なしでは油類又は軟膏を用いてはならない。すぐには痛みがなく視力に影響がなくても障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合：直ちに汚染した衣類、靴を脱がせ、石鹸を用いて多量の水で汚染した部位を洗い流すこと。皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

吸 入 し た 場 合：吸入して気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、気分の戻らない時は医師の診断を受けること。
又、眠気や目眩の症状がでた場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させること。
呼吸していて嘔吐のある場合は頭を横向きにする。
呼吸の弱い場合は人口呼吸や酸素吸入を行う。
上記、症状のある場合は直ちに医師に連絡すること。

飲 込 ん だ 場 合：直ちに水で口の中を洗浄し、コップ１～２杯の水を飲ませ直ちに医師の診断を受けること。無理に吐かせないこと。
被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。
子供などが飲み込んだ懸念のある場合、直ちに医師の診断を受けること。

５．火災時の措置

使用可能な消火剤　　水[○]、炭酸ガス[○]、泡[○]、粉末[○]
乾燥砂[○]、その他[　]

使ってはならない消火剤　　特になし。

火災時の特有の危険有害性	燃焼した場合、一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化水素等の有毒ガスが含まれるので消火の際には、煙を吸入しないように注意する。
特有の消火方法	①可燃性のあるものを周囲から取除く。 ②関係者以外は安全な場所に退去させる。 ③火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 ④消火作業は、可能な限り風上から行う。 ⑤大規模火災には消火剤を使用する。 ⑥消火の為の放水等により、環境に影響の及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火者の保護	適切な保護具(保護手袋、保護マスク、保護眼鏡)を着用する。 消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 屋内の場合、処理が終るまで十分に換気を行う。
: 漏出時の処理を行う際には、必ず保護具を着用すること。(保護手袋、保護マスク、保護眼鏡)
: 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
: 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
: 風上から作業し、風下の人を退避させる。
: 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
: こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

: 流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。
: 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しない様に注意する。
: 海上の場合、薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

封じ込め及び浄化の方法・機材

: 危険でなければ漏れを止める。
: 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は設置する。

少量の場合

: 吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させ取除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り密閉できる空容器に回収する。

多量の場合

: 盛土で囲って流出を防止し安全な場所に導いてから処理する。
: 付着物、廃棄物は都道府県条例に基づいて処理する。

二次災害の防止策

: 漏出時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：　使用前に取扱説明書を入手すること。
：　製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
：　全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
：　粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸引しないこと。
：　この製品を取扱い中に、飲食または喫煙を行ってはならない。
：　取扱い後はよく手を洗うこと。

その他の取扱い条件　：　材質により変色や腐食する恐れがあるので、前記用途以外の使用はしないこと。
：　ミストを吸い込まないようにすること。
：　換気の良い場所で使用し容器は使用毎に密栓すること。
：　シミになるので、衣服には付着しないように注意すること。
：　本品を取扱う場合は、必要に応じて保護具を着用すること。
：　目詰まりの原因となるので、他製品と混合しないこと。
：　異物が混入しないように、キャップなどを正しくセットすること。
：　取扱い後は、うがい、洗顔を行うこと。作業衣等に付着した場合は着替えること。

保管

適切な保管条件　：　製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
：　施錠して保管すること。

安全な容器包装剤材料　：　ポリエチレン容器に保管すること。

その他の保管条件　：　品質保護のため、０℃以下または４０℃以上になる場所や雨水、直射日光のあたる場所、湿気の多い場所には保管しないこと。
：　容器を横に倒して保管しないこと。
：　容器は、液が漏出しないように密栓すること。

8．暴露防止及び保護措置

設備対策　：　蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
：　屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

管理濃度・許容濃度

①カチオン系界面活性剤１　：
管理濃度　：200ppm<IPA>(2005 年度版)
許容濃度
日本産業衛生学会：最大許容濃度 400ppm<IPA>(2005 年度版)
ACGIH(TLV-TWA)：200ppm<IPA>(2004 年度版)

②カチオン系界面活性剤２　：
管理濃度　：設定されていない。
許容濃度
日本産業衛生学会：設定されていない。
ACGIH(TLV-TWA)：設定されていない。

③カルナバワックス：　管理濃度　：情報なし。
許容濃度
日本産業衛生学会：情報なし。
ACGIH　：情報なし。

④パラフィンワックス：　管理濃度　：設定されていない。
許容濃度
日本産業衛生学会：設定されていない。(2006年度版)
ACGIH(TLV-TWA)：2 mg/ m^3(2006年度版) ﾋｭｰﾑとして。

⑤石油系炭化水素１：　管理濃度　：設定されていない。
許容濃度
日本産業衛生学会：3mg/ m^3(2007-2008年度版) 鉱油ミスト
ACGIH(TLV-TWA)：5mg/ m^3(2007年度版) 鉱油ミスト

⑥石油系炭化水素２：　管理濃度　：設定されていない。
許容濃度
日本産業衛生学会：情報なし。
ACGIH(TLV-TWA)：情報なし。

⑦エチレングリコール：　管理濃度　：設定されていない。
日本産業衛生学会：設定されていない。(2006年度版)
ACGIH(TLV-STEL)：10mg/ m^3(2002年度版) ﾐｽﾄとして

⑧防腐剤　：　管理濃度　：設定されていない。
許容濃度
日本産業衛生学会：情報なし。
ACGIH　：情報なし。

保護具

呼吸器用の保護具　：　保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用すること。

手の保護具　：　必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。

目の保護具　：　必要に応じて保護眼鏡(側板付普通眼鏡)、ゴーグル型、保護面等を着用すること。

皮膚及び身体の保護具　：　必要に応じて保護衣、保護前掛け等を着用すること。

適切な衛生対策　：　換気の良いところで使用すること。
：　取扱い後はよく手を洗うこと。

９．物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色など)　：　黄色液体
臭い(臭いの閾値)　：　僅かに甘い臭い
ｐＨ　：　6 (20℃)
融点／凝固点　：　データなし

沸点、初留点と沸騰範囲	：	データなし
引火点	：	なし
自然発火温度(発火点)	：	データなし
燃焼性(固体、ガス)	：	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限／下限	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
蒸気密度	：	データなし
蒸発速度	：	データなし
比重(相対密度)	：	１．０００(20℃)
溶解性	：	水に易溶
オクタノール／水分配係数	：	データなし
分解温度	：	データなし
その他のデータ（粘度）	：	６０mPa･s 以下(20℃)

10. 安定性及び反応性

安定性	：	通常の取扱いにおいては安定である。
危険有害反応性	：	特になし
避けるべき条件	：	特になし
混触危険性物質	：	特になし
危険有害な分解生成物	：	燃焼により一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化水素等を発生する可能性あり。
その他	：	他洗車機薬剤との混合はしないこと。 製品の分離、品質（性能）劣化のため。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	区分外	ATEmix＞2,000mg/ｋｇ
急性毒性(経皮)	区分外	ATEmix＞2,000mg/ｋｇ
急性毒性(吸入)	分類できない	データ不足
皮膚腐食性／刺激性	分類できない	データ不足
眼に対する重篤な損傷／刺激性	区分２	1%≦眼区分１＜3%
呼吸器感作性／皮膚感作性	分類できない	データ不足
変異原性(生殖細胞変異原性)	分類できない	データ不足
発がん性	分類できない	データ不足
生殖毒性	区分１	生殖毒性物質区分１≧0.3% マウス、ラットの試験において児動物への影響がみられた。（奇形、骨化遅延、未骨化）
特定標的臓器／全身毒性─単回暴露	区分２	1.0%≦特定標的臓器毒性物質区分１＜10% 中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓の障害
特定標的臓器／全身毒性─反復暴露	区分２	1.0%≦特定標的臓器毒性物質区分１＜10% 長期又は反復暴露による中枢神経系、呼吸器、心臓の障害
吸引性呼吸器有害性	分類できない	データ不足

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	区分３	急性区分３分類結果≧25%※)
水生環境慢性有害性	区分３	急性区分３分類結果≧25%※)

※）未知成分が区分１と判定された場合でも、混合物の急性有害性は、区分１と判定されない。
しかし、分類する上での毒性乗数の結果によっては区分１、２の結果になる可能性があるが、
現状の有害性区分判定とした。

13. 廃棄上の注意

① 廃液、容器等の廃棄物は、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者や、収集運搬業者と委託契約して処理すること。

② 排水処理により発生した廃棄物についても　廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類　非該当

国連番号　非該当

国内規制

特別の安全対策

輸送の特定の安全対策及び条件

陸上輸送：取扱い及び保管上の注意の項に従う。消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。

注意事項：容器の破損、漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積込む。
荷くずれ防止を確実に行う。
該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
直射日光を避ける。
水濡れ厳禁。
横積み厳禁。
夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、衝突させたりしない。

15. 適用法令

消　防　法：　該当せず

労働安全衛生法：　第57条の２第１項(通知対象物質)　No.75　エチレングリコール
No.170　固形パラフィン

毒物及び劇物取締法：　該当せず

16. その他の情報

参考文献

１）製品安全データシート作成指針改訂版：日本オートケミカル工業会
２）ＧＨＳに基づく化学物質等の表示(JIS Z7251-2006)：日本規格協会
３）ＧＨＳに基づく化学物質等の分類方法(JIS Z7252-2009)：日本規格協会
２）日本オートケミカル工業会編集：化学物質管理データベース
３）１５１０７の化学商品　「化学工業日報社」
４）溶剤ハンドブック　「講談社」

＊注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者に提供されるものです。

取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処理を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。

したがって、本データそのものは、安全の保証書ではありませんので、取扱いには十分注意してください。